

1 教育目標（目ざす児童像含む）

○ よく考え、学ぶ子ども（知） ○ 自分を見つめ、つくせる子ども（徳） ○ 明るく、たくましい子ども（体）
～ かしこく・やさしく・たくましく ～

2 学校経営の理念（目ざす学校像含む）

自他の幸せの実現を目指し、変化の激しい21世紀を力強く生き抜くたくましい子どもの育成を目指す。そのために、全教職員の共通理解のもと、学習面においては、児童一人一人に応じたきめ細かな指導により基礎基本の徹底を図るとともに、認め合い、学び合う集団づくりに努める。生活面においては、積極的なあいさつの励行や時と場に応じた言葉遣いの指導など、礼儀正しく、誰に対しても思いやりの心をもって接する態度を育てる。また、地域、保護者との一層の連携を図り、地域とともにある学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印をつける。

○上河内地域学校園教育ビジョンに沿って地域の教育力を最大限生かした教育活動を展開する。

上河内地域学校園教育ビジョン

たくましいゆずっ子の育成 ～基礎を身に付け、人とつながり、夢に向かって生きる子どもを育てよう～

- （１）児童一人一人のよさを認め励ますことにより、その伸長に努める。
- （２）児童の主体的活動を尊重し、認め合い、学び合う集団づくりに努める。
- （３）児童が、分かる・できる喜びを感じられるよう、一時間一時間の授業において、個に応じたきめ細かな指導により基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、言語活動や対話的な学びの充実に努める。
- （４）自らの目標の実現に向けて粘り強く挑戦する心と体のたくましさを涵養する教育活動を推進する。
- （５）魅力ある学校づくり地域協議会等、学校支援者や支援団体との連携強化により、地域の特色を生かした学校運営に努める。

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印をつける。

基礎・基本の確実な習得と、主体的・対話的な学びの創造

【学校運営】○地域の教育力を生かした地域とともにある学校づくりの推進

- 校内研修や地域学校園研修会を通じた教職員の資質向上
- ・特別支援教育の理解の徹底と、個に応じた指導の充実

【学習指導】・基礎基本の確実な習得と主体的・対話的な学びの創造

- 学習規律や問題提示、まとめ・振り返りなど「学習のきまり」の徹底
- ・家庭と連携・協力した家庭学習の習慣化

【児童指導】・学校や社会のルールやマナーを守り、相手のことを考えて生活できる児童の育成

- 基本的な生活習慣を身に付け、ルールを守って行動する児童生徒の育成

【健康（体力・保健・食・安全）】○ボールの投げ方・取り方の継続的指導や活動の工夫 ・各種検定の充実

- 歯科指導の充実 ○毎月のテーマに基づく献立の充実
- ・基本的な食事マナーの指導の徹底 ・食育だよりを通じた保護者への啓発

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印を付ける。

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

項目	評価指標	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A1 学校全体に活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「私は今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答80%以上 児童 93.4% 「学校全体に活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である。」	① 「かしこく、やさしく、たくましく」の合言葉の浸透を図り、笑顔と活気のある楽しい学校づくりを進める。	A	A1について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答 93.4%、保護者 96.2%で指標を達成した。 ・①については、児童昇降口の壁面に常時合言葉を掲示し、児童の目に触れるようにすることで意識付けを図っている。また、学校行事等でも、合言葉を実現させる機会を意図的に設け保護者や地域に浸透させるように取り組んできた。
		② 学校行事では、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定し、明るく生き生きと取り組ませる。	B	【次年度の方針】

くいきいきした雰囲気である。」 ⇒保護者肯定的回答80%以上 保護者 96.2%	③ Q-Uの結果を分析し、支援が必要な児童を把握したり、日頃の観察をきめ細やかに行ったりして児童一人一人が生き生きと学校生活を送ることができる学級経営を行う。	B ・①については、合言葉のさらなる浸透を図るとともに、活気のある雰囲気が醸成できるよう、縦割り班活動や食農体験など児童が主体的に活動できる様々な取組を学校全体で推進していく。また、保護者に対して学年便りや、行事等での児童の活躍の様子を積極的に伝えていく。 ・②③継続
○A2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「先生は大切なことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答80%以上 児童 98.3% 「教職員は協力し、教えるべきことを熱心に指導している」 ⇒保護者肯定的回答80%以上 保護者 93.8%	① 学級を学びに向かう集団に高めながら、児童一人一人が自らの力で様々な不適応を解消し、意欲的に学習活動に取り組めるように指導・援助する。 ② 職務の遂行に当たっては、キャリアや専門性、特性を生かし、見通しをもって創意ある取組を目指す。 ③ 保護者や地域住民へ、児童の様子を紹介や協力依頼の発信など進んでコミュニケーションをとり学校教育の理解を促す。 ④ 来校者・電話・連絡帳などでの問い合わせには、速やかに丁寧に対応する。 ⑤ 服務規律を守り、信頼される教職員を目指す。	A2について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 98.3%，保護者 93.8%で指標を達成した。 ・いずれの取組も一定の成果が上がっており、昨年度と児童の肯定的回答はほぼ同等、保護者については、昨年度より5ポイント以上上回った。 【次年度の方針】 ・①については、児童が意欲的に学びに向かう集団づくりのためにめあて・学びの時間の確保・まとめ・振り返りなど授業の展開を工夫し、教職員の共通理解が図れるような場と時間の確保に今後も努める。 ・②については、教職員の学校経営への参画意識を各自の目標を常に意識しながら高めるとともに、一人一人が指導における達成課題を明確にして取り組んでいくように努める。 ・③については、各種便りの内容の充実に努めていくとともに、組織的な取組によりコミュニケーションの充実に努める。 ・④については、継続して、児童、保護者、地域住民からの信頼を得られるように全職員が誠意をもって指導に取り組んでいく。 ・⑤については、コンプライアンスアンケートを活用し、教職員間で問題意識をもって対応策を考え、その実施に向けて全職員が取り組む。
○A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定的回答80%以上 児童 88.8%	① 児童が正しく判断し責任ある行動がとれるよう、その姿を「上央っ子の誓い」「上河内中央小学校の約束」「上河内中央小学校の一日」「校庭での約束」に示し、学習と生活のきまりの徹底に努める。 ② 生活当番は、秩序があり安全な学校生活を実践できるよう週生活目標を設定し、掲示や放送、校内巡視などを行って意識付けをする。	A3について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 88.8%，保護者 95.3%で指標を達成した。 ・①については、年度当初に学級単位で指導するとともに、必要に応じて繰り返し確認をしてきた。 ・②については、生活当番の教員が校舎巡回を実施し安全確認に努めてきた。 ・③については、今年度も緊急時児童引き渡し訓練を実施するとともに、新たに竜巻や弾道ミサイル対応を想定した避難訓練を加え、緊急時に備えた。 【次年度の方針】 ・①については、引き続き朝の会や帰りの会

「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒保護者肯定的回答 80%以上 保護者 95.3%	③ 避難訓練(火災・地震・竜巻・不審者)、交通安全教室、緊急引渡し訓練の実施や「スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言」への理解等を通して、児童や保護者に対して正しい使い方とマナーを発信し、情報モラル教育を推進し、危機管理能力を高める。	で「よい子の生活」を取り上げ、定期的に振り返る機会を設けるとともに、家庭学習や放課後・休日等の過ごし方について、家庭と連携を図りながら、より良い学習や生活の習慣が定着できるようにする。 ・②については、生活当番の教員が巡視した際に、必要に応じて放送で注意を促したり、児童指導主任に報告したりして共通理解を図り指導に役立てていく。 ・③については、今年度の反省を踏まえ、各種の避難訓練の内容の改善を図る。また、情報モラルに関する計画的な指導を各学級で実施すると共に、家庭や地域への情報発信等、これまで以上に連携して危機意識を高めていく。
○A4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 98.3% 「教職員は児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている」 ⇒保護者肯定的回答 80%以上 保護者 88.3%	① 授業のねらいを明確にし、児童の関心や理解を促す教材開発や分かる授業のための指導法の工夫に努めると共に、共有化を図る。 ② 習熟度別学習や少人数指導、TT指導、かがやきルームやなかよし学級での個別指導等を通して、児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導をする。	A4について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 98.3%、保護者 88.3%で指標を達成した。 ・肯定的回答率が昨年度より児童は 2 ポイント保護者も 1 ポイント以上上昇している。 ・①②におけるめあて・学びの時間の確保・まとめ・振り返りなど授業の展開等指導法の工夫や個に応じた指導など、学力向上のための各種の取組に対する児童や保護者の理解が深まりつつある。 ・②については、担当者間で情報交換を密にし、分かる授業の工夫・改善に努めてきた。 【次年度の方針】 ・①②ともに、積極的に授業を公開し、保護者や地域住民へのさらなる周知を図る。 ・習熟度別学習や少人数指導については、単元に適した指導形態を柔軟に取り入れる ・授業の振り返りを基に意欲の継続を図るとともに、自学級やかがやきルーム等で、個に応じたきめ細かな指導を展開していく。
○A5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 〔全〕 【数値目標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 99.2% 学校はいじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる」 ⇒保護者肯定的回答 80%以上 保護者 82.3%	① 「上河内中央小学校いじめ防止基本方針」を改定し、保護者および地域に周知するとともに、方針に沿っていじめの防止に努める。 ② いじめの早期発見・早期対応のため、年度当初にいじめの実態調査の日程を決めて定期的の実施して実態把握に努めるとともに、年に 2 回定期教育相談を実施して問題の早期発見や信頼関係の醸成に努める。	A5について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 99.2%、保護者 82.3%で指標を達成した。児童の肯定的回答率が 2 年連続上昇し 100%に近いことから、児童は教師がいじめを許さないという姿勢で指導していることを強く感じている様子が分かる。 ・保護者の肯定的回答で、学校の「いじめ防止基本方針」に沿った「いじめゼロ集会」等の取組が保護者に伝わり、昨年度よりわずかではあるが肯定的回答が上昇した。 【次年度の方針】 ・全校縦割りによるいじめゼロのための集会や、いじめアンケート、教育相談を通していじめの防止や早期発見に努めることや、いじめ対策のための取組を学校自由参観日や各種便り等を通して保護者や地域に周知することなどを実践していく。 ・年度当初の家庭訪問や夏休み、冬休み前の個人懇談、学年・学級懇談等で、交友関係の実態を保護者と共有し、より良い友達関係の構築に努める。
A6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている。	① 日課は、子どもにとってゆとりと秩序のあるものになるよう適切に実施する。	A6について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 94.6%、保護者 99.6%

【数値指標】 全体アンケート 「私の学校生活や様々な活動は充実している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 94.6% 「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている」 ⇒保護者肯定的回答 80%以上 保護者 99.6%	② 新学習指導要領及び小中一貫教育の趣旨を踏まえ、学校スタンダードに示す取組を実践するよう、各教科等年間指導計画・各種教育年間指導計画を見直すとともに、本校独自の教育活動を推進する。 ③ 学校行事は、その都度評価し、改善すべき点について検討して次年度に生かす。	で指標を達成した。 ①については、学校教育活動に必要な時間を確保しつつ、通常日課と特別日課で3校時以降の授業の開始時刻を合わせるなど、児童に分かりやすい日課を実施している。 - 学校行事についても、実施の都度評価を行い、改善するようにしてきた。 【次年度の方針】 ①については、次年度も引き続き今年度の日課を継続実施していく。 ②については、出前授業や地域と連携した体験活動を取り入れ、地域の特性を生かしたもののや一定の効果があつたものについて自校化し、継続していく。 ③については、次年度も早めに評価を行い、結果をもとに改善していくように努める。
A7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者肯定的回答 80%以上 保護者 98.3%	① 学校だより、学年だより、保健だより、図書館だより、食育だより等様々な便りの作成において、関心を高める紙面の工夫に努めながら積極的に発信提供したり、ホームページを適宜更新したりして、保護者や地域住民に学校の取組を知らせる。 ② 授業参観、学校自由参観日、学校行事等において積極的に保護者や地域住民に学校を公開し、アンケートを実施して保護者や地域住民の意見を学校経営に反映させる。	A7について 【達成状況】 - 保護者の肯定的回答率 98.3%で指標を達成した。また、教職員、地域住民ともに肯定的回答 100%であった。 ①の各種たより等については、時季を考慮した話題を取り上げたり、学校行事や学年行事等の写真を多く入れたりして関心を高める工夫を行ってきた。また、上央小 NOW や報道機関を通し、適宜情報を発信した。 ②についてはアンケートだけではなく、懇談会や協議会等での話し合いで感想等を求めるようにし、保護者や地域住民の声を改善に生かせるようにしてきた。 【次年度の方針】 ①②継続
○A8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 90.9% 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者肯定的回答 80%以上 保護者 96.5%	① 学校支援ボランティアの活用や出前授業、校外学習などにおいて地域の人材や施設・設備等の教育力を生かした学習を充実する。 ① 「魅力ある学校づくり地域協議会」において、児童の健全育成を目指し、学校・家庭・地域の連携を深める事業を推進しながら交流の輪を広げる。	A8について 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率 90.9%、保護者 96.5%で指標を達成した。 ①②ともに、地域協議会や地域住民の協力を得た授業や出前講座等により、地域の人材を活用した効果的な活動を展開することができた。 - 児童が課題解決の方策として、地域教材や人材を広く求め、より深い追究をすることができた。 【次年度の方針】 - 学校として、年間を見通した外部講師への依頼内容をまとめ、地域協議会等の組織を機能させて交流を深めていく。 1年：昔遊び 2年：地域探検 3年：郷土資料館見学、地域のスーパー見学 総合的な学習の時間の地域自慢の発信 4年：松田新田浄水場の見学 5年：老人福祉センター見学、ぼうじぼ作り 博学連携出前授業、科学移動教室 6年：薬物乱用防止教室、人権教育
A9 校内は、学習にふさわしい環境になっている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート	① 校舎内外の美化に努め、児童自ら日常的に清掃活動に取り組むよう支援し、快適な学習環境作りを目指す。	A9について 【達成状況】 児童の肯定的回答率 90.9%、保護者 97.8%で指標を達成した。

「校内は、清掃がしっかり行われ学習しやすい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 90.9% 「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」 ⇒保護者肯定的回答 80%以上 保護者 97.8%	② 日々校舎内外の巡視をするともに、月1回施設・設備の安全点検を実施し、必要な箇所の修繕を迅速に行い学習環境の整備に努める。 ③ 適切に予算を執行し、指導計画に基づいて教材教具を整備してその適切な活用と管理に努める。	B ・①については、週4回の清掃の他、必要に応じて清掃強化週間を設け、校内美化に努めている。また、B日課が続く際には、高学年が必要に応じて清掃を行っている。長期休み時等を利用して機動班によるトイレ清掃等も実施した。夏休み明けには、PTAが中心となって除草等を実施した。 ・②については、校舎内外の環境整備や、備品管理・整理作業等を計画的に実施してきた。 ・③については、予算の執行についての情報交換を密に行うとともに、会議等で共通理解を図り、予算を計画的に使うことができた。 【次年度の方針】 ・①②③いずれにおいても、定期的に備品整理を行うとともに、計画的に教具・教材の整理・整頓を行っていく。
B1 教職員は情報を伝え合い解決に向けてそれぞれの役目を果たしている。 【数値指標】 全体アンケート 「情報を伝え合い解決に向けてそれぞれの役目を果たしている」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上 教職員 100%	① 管理職及び職員間の報・連・相を大切に、互いに声をかけ合うと共に、「報・連・相」を心がけ共通理解に努め協力し合う。 ② 問題行動発生時には、校長のリーダーシップのもと全職員が連携して組織的に取り組み、誠意ある対応を心がける。	B B1について 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率 100%で指標を達成した。 ・①②ともに、全教職員で情報を共有したり、問題が起きた場合は、関係する教職員が一丸となり、迅速かつ継続的に解決に当たったりしてきた。また管理職に常に正確な情報が伝わるように組織を整え、適切な対応ができるよう努めてきた。 【次年度の方針】 ・①は継続 ・②について、校内の体制はもちろん、PTAや地域協議会との情報共有や連携を図り、より良い対応に心がけていく。
○A10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 93.2% 「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上 保護者 96.3%	① 5年生の冒険活動教室や6年生の乗り入れ授業・中学校訪問、小中合同あいさつ運動などの行事を通して、積極的な交流を図りながら活動することを目指す。 ② あいさつ運動などを通して、地域の一員としての自覚を高められるようにする。	B A10について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 93.2%、保護者の肯定的回答率 96.3%で指標を達成した。 ・①②について、特に本地域学校園では中学校1年生と3校の小学校5年生が同時開催で冒険活動教室を継続的に行っており、キャンプファイヤーで交流したり、縦割りで野外炊飯活動を取り入れたりしている。年6回の中学校から6年生への乗り入れ授業や年2回の小学校から中学1年生への入り授業、年2回の小中合同あいさつなど、積極的に交流している。 【次年度の方針】 ・①②継続

教育活動の状況①	生活	OA11 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時や場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上 児童 95.9% 保護者 83.7%	① 年5回の「あいさつ名人」表彰や、地域協議会のあいさつ運動で意識を高めながら、日々の生活指導の中で明るいあいさつや元気な返事ができる子の育成を目指す。	A	A11について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 95.9%、保護者 83.7%で指標を達成した。地域住民の肯定的回答率が 93.8%と大きく上昇した昨年度とほぼ同程度であり、地域であいさつすることも定着しつつあることが分かる。 ・①については、地域協議会では年間10回、小中一貫教育の取組として中学生とともに年間2回、合計12回の、地域ぐるみのあいさつ運動を実施した。 【次年度の方針】 ・学校独自の取組として、平成26年度の2学期から「あいさつ名人」の表彰を始めた。顕著な効果を上げつつあるので、次年度もさらに内容を充実させて取り組んでいく。 ・校内での日常のあいさつや各行事等での実践の他、各家庭でもあいさつが交わせるように、年に何回か行われる懇談会等であいさつの啓発を行っていく。
		OA12 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 90.9% 「児童は、大人に対して適切な言葉づかいをしている」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 80% 保護者 77.8% 地域住民 86.6%	① 相手の気持ちを考えた言葉づかいや場に応じた言葉づかいができる子の育成を目指し、生活と学習の両面から日常の指導を充実させると共に、道徳の時間の重点項目に掲げて指導の徹底を図る。 ② 朝の会や会話科、学級活動等で、時や場に応じた適切な言葉づかいができるよう、学年の発達の段階に応じた指導をする。		A12について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 90.9%、保護者 77.8%、地域住民 86.7%で、児童と地域住民は指標を達成したが、保護者は指標に届かなかった。 ・教職員の肯定的回答率は 77.8%で、保護者の肯定回答率に近い。 【次年度の方針】 ・授業中や大人と話す際の正しい言葉づかい、職員室への入室の際のあいさつの仕方、休み時間の会話における言葉づかい、日常的に「～さん」という呼称の仕方等、様々な場面で望ましい言葉づかいの例を示し、教職員の共通理解のもとで徹底して指導に当たっていく。 ・学級懇談会や家庭訪問、個人懇談等でも「言葉づかい」について話題として取り上げ、家庭と連携を図り指導にあたりたい。
		B2 児童は学級や縦割り班の活動などで、仲よく助け合って生活している。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「学級やにこにこ班の活動では、友達や下級生と仲良く過ごしている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 96.3%	① 日々の清掃活動や学校行事などで、縦割り班での活動の機会を設定し、学年の枠を超えて協力して仕事や活動ができるようにする。	B	B2について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 96.3%で指標を達成した。 ・日々の清掃活動を始め、1年生を迎える会、6年生を送る会、羽黒山遠足、いじめゼロ集会や感謝の会等の行事を縦割り班で行うことで、それぞれの学年に応じた役割や協力がなされ、十分な成果を上げている。特に、6年生のリーダー性が培われ、異学年交流のよさが生かされている。 【次年度の方針】 ・①継続

健康・体力	OA13 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定的回答80%以上 児童 86.7% 「児童は、平日の授業後や休日などに積極的に運動している」 ⇒保護者の肯定的回答70%以上 保護者 70.3%	① ミニマム達成のための運動プログラムを実施して運動の日常化に努めるとともに、教科体育においては授業の開始時に授業内容に応じたサーキットトレーニングを適宜取り入れる。 ② 学級においては、水曜日のロング屋休みに共遊の時間を確保するように努め、体力向上を目指すとともに学級の人間関係の構築を図る。	A A13について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は86.7%で指標を達成した。 ・保護者の肯定的回答率が70.3%,地域住民が84.6%と指標を達成した。 ・①については、サーキットトレーニングを取り入れ、発達段階を考慮しながら体力づくりを進めてきた。また、地域学校園で検討した水泳検定表を使用し、中学校と小学校3校が取組の一貫性を図っている。鉄棒や持久走,なわとびを計画的に組み入れ,休み時間等に進んで練習に臨めるようにしてきた。また,宇都宮元気っ子チャレンジに参加し,休み時間を利用してながらボール投げリレーの練習を行い,投力の向上を図った。 A 【次年度の方針】 ・①は,体力づくりの他,各種検定の実施や一人一人の目標を明確にして進んで運動できる環境の整備を行うとともに,学年便り等でその時々で行っている活動を紹介し,放課後や休日の運動の協力を啓発していく。 ・②は,休み時間の共遊などに教職員も可能な限り入り,児童の人間関係の把握や構築に努めていく。
	OB3 児童は早寝、早起きの習慣が身に付いている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、早寝、早起きの習慣が身に付いている」 ⇒児童・保護者の肯定的回答80%以上 児童 71.8% 保護者 70.8%	① 「早寝・早起き・朝ごはん」の重要性について啓発を進めるとともに、早寝・早起きの習慣の定着の様子を把握し、実態に応じて基本的な生活習慣の確立に努める。	A B3について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は71.8%,保護者は70.8%とともに指標に届かなかった。 ・昨年度も保護者は指標に届かなかったが,今年度は昨年度に比べて児童が13ポイント近く下回っている。 ・低学年より高学年の保護者の肯定的回答率が低く,児童が思っている以上に保護者は早寝,早起きが身に付いていないと感じている様子がうかがえる。 【次年度の方針】 ・家庭訪問や学年・学級懇談会,個人懇談等で話題にして,各家庭への協力を求めるとともに,保健便りや給食便り等でも早寝早起きや朝食の必要性を積極的に発信していく。 更に,夏休み・冬休みの長期休み明けに「早寝・早起き・朝ごはんチェック」を5日間実施し,家庭と連携して習慣化を図っていく。
	A14 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、好き嫌いをなく給	① 学校栄養職員の取組を生かし、教室やランチルームでの給食指導の充実を図ったり、保護者への啓発に努めたりしながら、望ましい食習慣を育て食事のマナーを身に付けさせる。	A A14について ・児童肯定的回答率は77.2%,保護者は63.0%で指標には届いていない。 ・教室やランチルームでの会食時には、献立について、栄養のバランスや食材等の情報を伝え、食育指導をその都度行っている。また、偏食のある児童に対しては、少しずつ

	食を食べている。」 ⇒児童の肯定的回答 80% 以上 児童 77.2% 「自分の子どもは、好き嫌 いなく食事をしている」 ⇒保護者の肯定的回答 70% 保護者 63.0%	② 食事をとることの大切さにつ いて、学年に応じた授業を通して 理解を深め、自ら実践する態度を 育てる。	A つ食べられるように個別に指導している。 ・給食便りで家庭への食に関する啓発を行っ たり、高学年の給食委員会の児童を中心に食 事マナーに関するイベントを実施したりし た。 【次年度の方針】 ・①については、学級活動で担任の他、学校栄 養職員が T・T として授業に参加し、バラ ンスよく食べることの大切さを学年に応じて 指導を行っていく。 ・②については、食に関する内容の授業を公 開したり、給食便り等で保護者に対して、 好き嫌いなく食べることの大切さの啓発や 人気メニューのレシピの紹介を行ったり、 学年・学級懇談会で食事の大切さを話題に したりするなどして、家庭への協力を呼び かける努力を継続的に行う。
学 習	○A15 児童は、進んで学 習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は授業中に進んで話 し合うなど積極的に学習 している」 ⇒児童の肯定的回答 80% 以上 児童 92.9%	① 授業では、学習のきまりを全 校で徹底し、基礎・基本の定着 を図るとともに、主体的・対話 的な学びの場を設定し、自分の 考えを表現できる児童を育て る。	A A15について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 92.9%で指標を達成 した。 ・教職員においても 95.5%と昨年度と同等で、 授業で学びの基礎・基本の定着や学び合い を通して表現力を身に付けることを継続的 に行っている成果と考えられる。 ・各教室に『「目・耳・心」で聞くこと』『「は っきり、ゆっくり、大きな声で」話すこと』 など、聞き方や話し方について具体的に掲 示した効果が上がった。 ・上央小スタンダードをもとにした授業の研 究を継続的に学校課題に盛り込み、教員の 研修を深めたことにより、児童の学習意欲 も向上した。 【次年度の方針】 ・①②ともに、学習問題やめあてをはっきり 自分の課題としてとらえ、見通しを立ててじ っくり自分の考えをもち、書いたり話したり すること、それらを基に必要に応じて話し 合い、自分の考えをより確かに再構成し、ま とめ振り返るという学習を展開していく。ま た基礎・基本の定着を図るために家庭教育 との連携も一層充実させていく。
	○B4 児童は自主的に学習 に取り組むなど、学習 習慣が身に付いてい る。 【数値指標】 全体アンケート	① 職員間で共通理解を図り、児童 が自主的に学習に取り組めるよ うに自主学習ノートや音読カー ドなど、具体的な方策を立て継続 して指導していく。	A B4について 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は 95.5%で指標を達 成した。 ・児童の肯定的回答率が 79.7%、保護者が 66.1%と昨年度よりは若干上昇したものの指 標に届かなかった。 ・音読や各種の練習カード、家庭学習について

本校の特色・課題等	「児童は自主的に学習に取り組むなど、学習習慣が身に付いている」 ⇒教職員・児童・保護者の肯定的回答80%以上 教職員 95.5% 児童 79.7% 保護者 66.1%	② 年度当初に全家庭に家庭学習についての共通理解を図るプリントを配付し、家庭と連携を図りながら、低学年(10～20分)、中学年(30～40分)、高学年(1時間以上)の家庭学習を実践させる。	A	は、年度当初から各学年の実態に合わせた形式で実施した。自主学習ノートについては、2～6年生が年度当初から、1年生は2学期から実施している。家庭学習がよくできている児童を「家庭学習名人」として学期に1回表彰している。また全校朝会の折に学校長から課題が出されることがあり、実施した児童のノートのコピーを職員室前の廊下に掲示し、称賛している。 【次年度の方針】 ・年度当初に自主学習の進め方やノート作りの例を、時間をとって児童に説明し、継続的に実施できるように支援していく。また家庭学習のめやすの時間の検討も行う。 ・家庭と連携して、継続的に自主学習の習慣が定着するように、年度当初の保護者会等で家庭への協力を依頼し、個人懇談等で家庭での学習への取組の状況を確認していく。
	○A16 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」 ⇒児童・保護者の肯定的回答80%以上 児童 90.9% 保護者 91.0%	① 学習の基盤となる学習態度や学習技能を身に付けるために、学校全体で「学習のきまり」を決めて継続して取り組み、系統的な指導に努める。 ② 「話の聞き方」については、全教育活動を通して、学年の発達の段階を踏まえつつ、全職員による共通理解のもとで育成する。	B	A16について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は90.9%、保護者91.0%で指標を達成した。特に保護者は7ポイント以上肯定回答が上昇した。 ・①の「学習のきまり」について共通理解を図って指導したことは効果的であった。 ・②については朝会や集会の際も「話は目と耳と心で聞く」ことを各担当者が呼びかけた成果が見られた。 ・基礎・基本の確実な習得を掲げた研究の継続により、自分の考えをもって、落ち着いて学習に取り組む児童が増えてきた。 【次年度の方針】 ・落ち着いた環境の下で、真剣に学習に取り組むことの重要性を全職員で共通認識した上で、今後も研究を継続していく。さらに、掲示物等を活用し、発達段階に応じた聞き方・話し方ができるようにしていく。
	○B5 食農体験活動は、農業や食の理解や関心を深めるために大切な活動と理解し取り組んでいる。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「食農体験活動は農業や食への理解や関心を深めるために大切な活動である」 ⇒児童・保護者・地域住民の肯定的回答80%以上 児童 97.5% 保護者 99.2% 地域住民 100%	① 全児童が食農体験事業で田植えや稲刈りを体験したり、5年児童が総合で稲の観察や世話などを実践したりすることで農業や食への理解や関心を深める。	B	B5について 【達成状況】 ・児童肯定的回答率は97.5%、保護者99.2%地域住民100%で指標を達成した。 ・①の食農体験では、収穫した米で、各学年がおにぎり作りに取り組んだ。また、稲の生育についての関心を高めたり、ぼうじぼ作りで米作りのさかんな地域ならではの伝統に触れたりすることもでき、食育の面での成果も見られた。 【次年度の方針】 ・①継続

〔総合的な評価〕

※地域学校園内で共通する方針・重点目標・取組に関わる内容は文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

1 学校運営について ・各種便り、ホームページ、オープンスクール等により、学校の現状や教育活動について積極的に情報を提供することができた。その結果、多くの項目で指標を上回り、児童、保護者、地域住民ともに学校に対して、信頼と期待を寄せていることがうかがえる。 ・教育活動においては、地域人材や地域施設等と連携した授業を展開することができ、地域と連携した教育活動が定着してき

ている。読み聞かせや図書整備簿ボランティアは、数年間継続して協力いただいている。下校時の見守りボランティアも、低学年の安全確保の一助として定着している他、今年度から登校時にもボランティアとして協力いただいている。授業支援ボランティアについて、5・6年生のミシンを使った家庭科の授業や、低学年を中心に生活科等の地区内の校外学習の引率のボランティアを昨年度に引き続き募集したところ今年度も協力が得られ、より充実した教育活動が展開できた。

○小中一貫教育では、乗り入れ授業や小学校6年生による中学校訪問、宿泊学習における合同活動など、地域学校園としての交流を行うことができた。

2 教育活動の状況について

・教職員の回答状況から、教職員が自らの使命を自覚し、誠実に教育活動に取り組んでいることが分かった。学習指導では、今年度は「じっくり・はつきり・すっきり」の上中小スタンダードを授業に盛り込み、共につくり上げる研究授業や教職員同士の授業参観、各種内容を盛り込んだ校内研修を通して指導方法の改善に取り組んだことで、教職員の指導力向上につながった。その結果として、更なる児童の学習意欲の向上や学び合い活動の活発化、何を学んだかの自己評価に結びついたと考えられる。家庭との連携という点で、昨年度途中から具体的に始めた家庭での自主学習の実施については、今年度から「家庭学習名人」の表彰を取り入れ、励みにつながっていると考えられる。

・児童指導については、3年前から始めた「あいさつ名人」の表彰や、地域協議会と連携・協力して行っているあいさつ運動、小中連携で中学生も入った年2回のあいさつ運動などの定着が、昨年度と同程度の成果を上げていていると考えられる。いじめについても、いじめゼロ集会やいじめアンケートの実施、学校全体でいじめを生まない素地づくりに努めるとともに、相談があった場合には、迅速に組織的に対応したことの成果が表われた結果となった。言葉遣いについて、時と場に応じた正しい言葉遣いができるように、今後も意図的に指導していく必要がある。

・健康・体力に関しては、好き嫌がなく食事ができるよう、家庭と連携して食に関する指導・実践を行う必要がある。また、体力の向上を目指して、児童が発達段階や各自の実態に応じた目標がもてるよう、学校や家庭で進んで運動に取り組める工夫がさらに必要である。

3 本校の特色について

・本校独自の地域に密着した活動は、教育的効果が高い結果となっている。田植え・稲刈り等の食農体験、ぼうじぼ作り、ふるさとカルタ取り大会、羽黒山全校登山等本校の伝統として地域の協力を得ながら、今後も継続していきたい。

6 学校関係者評価

1 保護者の結果から

・多くの項目で指標を達成しており、学校の方針や活動に一定の理解が得られた結果となった。
・教職員の指導、分かりやすい授業展開やきめ細かな指導についても、肯定的回答が昨年度を上回った。
・各種便り等を通して、情報発信・提供を積極的に行っているため、保護者からの肯定的回答率が更に上昇した。また、学校環境に関しても、肯定的回答がさらに上昇した。
・言葉遣い、運動への積極的な参加、好き嫌がなく食えることなど、児童の基本的な生活習慣が指標に届いていないものがあった。次年度の課題として取り組むとともに、学校と家庭の連携をしっかりと、基本的な生活習慣の確立に努めていく。

2 地域住民の結果から

・半数以上の項目で肯定的回答が100%と、学校の方針や活動状況に理解が得られている。反面、児童の言葉遣いや積極的な運動参加への肯定的回答が90%に届かず、特に言葉遣いに課題が見られた。
・今後は更に地域との連携を図り、信頼される学校づくりに努め、地域に根ざした学校経営に尽力していきたい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

児童の肯定的回答率が高いのに対して、保護者との開きが見られる項目がいくつもあった。しかし、昨年度に比べて保護者の肯定的回答が上昇した項目が21項目中15項目あり、5ポイント以上上昇した項目も複数あった。今後本校の教育活動が保護者や地域に十分理解されるよう、情報発信・提供を積極的に行うとともに、家庭や地域との連携をさらに深め、学校への期待や信頼に応えられる学校づくりに取り組んでいきたい。

また、家庭と連携して児童理解を深めるために、授業参観や保護者懇談会、個人懇談や家庭訪問を通して、直接保護者とコミュニケーションをとる機会を充実させていきたい。

今年度も、全体的に教育方針や教育活動に関しての理解はなされている結果であったが、回答から見えてきた「時と場に応じた言葉遣い」「積極的な運動」「好き嫌がなく食えること」「自主的に学習に取り組むこと」などの課題を、次年度は改善できるように、具体的な方策を立てて実践していきたい。

○特に「好き嫌がなく食えること」や「時と場に応じた言葉遣い」「学習習慣の確立」に関しては、地域全体にも関わる課題として、地域学校園の課題としても継続的に話題に取り上げ、改善に向けての方策を共有していく。

小中一貫研修会では、教科部会において小中学校の情報交換が行われ、9年間を見通した連携がなされている。次年度も学力向上に向けて、上河内地域学校園として、これまで取り組んできた学習のきまりや家庭学習の進め方に加え、道徳の教科化や小学校での英語活動などを見据えた年間指導計画の作成や授業展開など、それぞれの学校の児童・生徒の実態を考慮しながら、4校が協力して取り組んでいきたい。